

KAYABA RALLY TEAM

2026 ALL JAPAN RALLY CHAMPIONSHIP REPORT #8

Rd.8

2026/10/16~18 岐阜県高山市

第53回 M.C.S.C.ラリー

ハイランドマスターズ2026

supported by カヤバ



KYB
RALLY TEAM

スペシャルステージ

SS数: 12
路面: ターマック

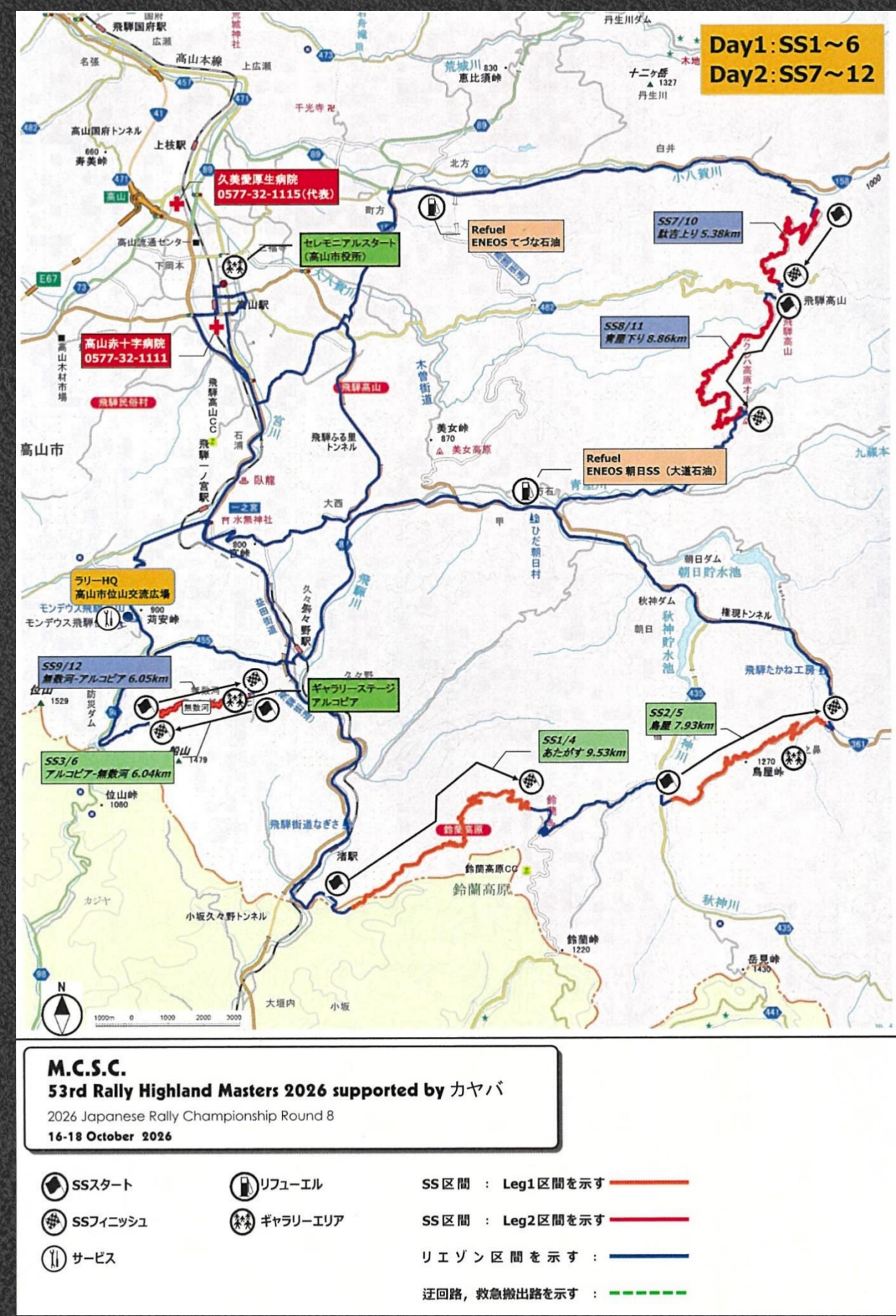
総走行距離: 380.73 km
SS距離: 87.58 km

LEG1 10/17(土) 天候: 晴れ / 路面: ドライ			LEG2 10/18(日) 天候: 晴れ / 路面: ドライ		
SS1	あたがす 1	9.53 km	SERVICE C (15 min)		
SS2	鳥屋 1	7.93 km	SS7	駄吉上り 1	5.38 km
SS3	アルコピア - 無数河 1	6.04 km	SS8	青屋下り 1	8.86 km
	SERVICE A (30 min)		SS9	無数河 - アルコピア 1	6.05 km
SS4	あたがす 2	9.53 km		SERVICE D (30 min)	
SS5	鳥屋 2	7.93 km	SS10	駄吉上り 2	5.38 km
SS6	アルコピア - 無数河 2	6.04 km	SS11	青屋下り 2	8.86 km
	SERVICE B (45 min)		SS12	無数河 - アルコピア 2	6.05 km
				SERVICE E (10 min)	

SS1/4	あたがす	2023年から4年連続で採用されている大会最長の定番ステージ。スタートから上り勾配が続き、600m以上の高低差を一気に駆け上がる。上り坂では加速が鈍くなるため、序盤の高速区間で速度を落としすぎない走行が重要となる。
SS2/5	NEW 鳥屋	この林道を使用するのは2013年以来。距離と走行方向を変更した新規ステージとなる。緩く短いコーナーが多く、ペースノート作成とリーディングの難易度が高い。ステージ途中の猪之鼻公民館前には観戦ポイントが設けられた。
SS3/6	アルコピア - 無数河	10年以上も設定され続ける、ハイランドマスタースを代表する定番ステージ。「ひだ舟山リゾートアルコピア」側から走行すると上り方向となる。コーナーをショートカットできる箇所が多く、道に掻き出される泥や砂利への対応が重要。
SS7/10	駄吉上り	昨年とは逆走となり、ステージを通して上り勾配が続く。全体的に路面状態は良好だが、ステージ内には100m以上にわたって泥に覆われた滑りやすい要注意区間があり、メリハリのある慎重な対応が求められる。
SS8/11	青屋下り	昨年とは逆走となり、2017年以来の下り方向での設定。後半は急勾配が続き、約3kmで標高を300m下る。昨年は雨の影響もあり落ち葉と泥で非常に滑りやすい路面だったが、今年は天候も良く、比較的良好な路面コンディションとなった。
SS9/12	無数河 - アルコピア	SS3/6と同じコースを逆走するステージ。前日の走行で掻き出された泥や砂利が路面に残り、走行を重ねるごとにさらに路面が荒れる傾向がある。下り勾配となりブレーキへの負担も増すため、SS3/6より難易度が高い。



全体図



チーム体制



監督 : 梶本 一憲
リーダー : 大西 一智 (第2期)
ドライバー : 石黒 一暢 (第1期)
コ・ドライバー : 穴井 謙志郎 (第1期)
メカニック : 増谷 大志 (第1期)
松田 幸也 (第1期)
北原 由享 (第2期)
湯浅 慎一郎 (第2期)
井戸 貴之 (第2期)
エンジニア : 古川 優太 (第2期)
マネージャー : 池戸 敬也 (第2期)
チームアドバイザー : 奴田原 文雄 (NUTAHARA Rally Team)
メカニックアドバイザー : 山田 淳一 (RUTS RACING)



リザルト

クラス5位 / 総合14位 (JN-1クラス8台 / 総合81台 参加)

クラス	No.	Dr.	Co-Dr.	参加車両名	車両型式	車両区分	LEG 1							LEG 2								総合計	クラス 順位	総合 順位	
							SS1	SS2	SS3	SS4	SS5	SS6	Penalty	合計	SS7	SS8	SS9	SS10	SS11	SS12	Penalty				合計
JN-1	1	新井 大輝	立久井 大輝	R2R×YAHAGI GRヤリスラリー2	MXPA12	FIA	6:06.4	6:02.0	4:39.8	6:04.7	5:59.3	4:39.6		33:31.8	3:56.5	6:37.5	4:37.2	3:55.7	6:32.3	4:34.6		30:13.8	1:03:45.6	1	1
JN-1	3	勝田 範彦	保井 隆宏	ラックルーキーDLGRヤリスRally2	MXPA12	FIA	6:12.8	6:22.1	4:40.4	6:06.3	6:04.1	4:38.8		34:04.5	4:00.4	6:41.4	4:42.0	3:58.5	6:37.7	4:39.8		30:39.8	1:04:44.3	2	2
JN-1	2	鎌田 卓麻	松本 優一	Castrol TEIN DL ファビア	ABCUFX11	FIA	6:15.6	6:07.5	4:46.3	6:11.3	6:03.5	4:45.6		34:09.8	4:03.5	6:42.6	4:42.2	4:00.2	6:38.2	4:39.5		30:46.2	1:04:56.0	3	3
JN-1	5	福永 修	齊田 美早子	スミロン焼肉ふじCTE555DLファビア	ABDKZX11	FIA	6:24.5	6:21.9	4:47.8	6:14.5	6:11.1	4:49.4		34:49.2	4:07.4	6:56.9	4:47.2	4:04.0	6:52.8	4:44.8		31:33.1	1:06:22.3	4	4
JN-3	9	山田 啓介	藤井 俊樹	FITEASYソミック石川DLGRヤリス	GXPA16	RJ	6:35.7	6:23.0	4:56.5	6:25.6	6:19.5	4:51.5		35:31.8	4:12.9	6:56.6	4:52.0	4:14.8	7:05.1	4:56.5		32:17.9	1:07:49.7	1	5
JN-3	14	小泉 敏志	山本 磨美	MAYA DL CUSCO DDヤリス	GXPA16	RJ	6:34.8	6:30.0	4:58.9	6:35.6	6:24.7	4:56.5		36:00.5	4:15.3	7:06.5	4:58.1	4:13.3	7:02.4	5:00.0		32:35.6	1:08:36.1	2	6
JN-3	12	貝原 聖也	西崎 佳代子	ADS多賀製作所K1カヤバGRヤリスDL	GXPA16	RJ	6:39.7	6:32.5	4:57.8	6:36.6	6:30.8	4:59.0		36:16.4	4:16.0	7:02.1	4:57.4	4:14.0	7:03.7	4:56.8		32:30.0	1:08:46.4	3	7
JN-3	10	大倉 聡	豊田 耕司	AISIN GR Yaris DAT	GXPA16	RJ	6:36.9	6:29.1	5:04.1	6:34.4	6:28.5	5:01.7	0:10.0	36:24.7	4:11.4	7:08.3	4:55.9	4:13.2	6:58.6	4:57.3		32:24.7	1:08:49.4	4	8
JN-3 (MCC)	18	最上 佳樹	小藤 桂一	FIT-EASY ZEAL GRYARIS	GXPA16	RJ	6:33.9	6:33.6	5:01.1	6:36.9	6:33.5	4:56.0		36:15.0	4:18.9	7:12.8	5:01.2	4:18.5	7:07.3	4:54.4		32:53.1	1:09:08.1	5	9
JN-3 (MCC)	17	米林 慶晃	菅野 総一郎	KTMS NRS GRヤリス	GXPA16	RJ	6:40.7	6:33.2	5:02.5	6:40.5	6:31.4	5:03.3		36:31.6	4:14.9	7:04.7	4:59.9	4:17.7	7:05.9	4:59.1		32:42.2	1:09:13.8	6	10
JN-3 (MCC)	19	三枝 聖弥	木村 裕介	IMSF DL GRヤリス 初号機	GXPA16	RJ	6:41.5	6:39.6	5:06.7	6:36.9	6:36.1	5:05.3		36:46.1	4:19.0	7:07.8	5:00.9	4:17.9	7:07.6	5:02.7		32:55.9	1:09:42.0	7	11
JN-3	11	徳尾 慶太郎	石田 一輝	DLクスコitzzフォルテックGRヤリス	GXPA16	RJ	6:46.5	6:27.4	5:03.2	6:43.7	6:35.1	5:10.1		36:46.0	4:20.1	7:13.7	4:59.7	4:18.1	7:08.0	5:01.6		33:01.2	1:09:47.2	8	12
JN-3	15	石川 昌平	里中 謙太	ARTAオートボックスGRヤリス	GXPA16	RJ	6:46.3	6:41.9	5:04.2	6:44.2	6:40.1	5:05.9		37:02.6	4:19.3	7:12.3	5:01.2	4:23.5	7:12.6	4:59.5		33:08.4	1:10:11.0	9	13
JN-1	7	石黒 一暢	穴井 謙志郎	カヤバ YH GRヤリス	GXPA16	ASN	6:46.5	6:44.9	5:03.5	6:31.7	6:37.0	5:01.4		36:45.0	4:15.4	7:11.8	5:02.5	4:15.4	7:16.7	5:46.3		33:48.1	1:10:33.1	5	14
JN-3	13	内藤 学武	大高 徹也	YH TEIN Motys GRヤリス	GXPA16	ASN	6:52.0	6:44.0	5:12.2	6:41.1	6:38.6	5:07.3		37:15.2	4:21.6	7:11.5	5:03.8	4:20.5	7:17.5	5:03.6		33:18.5	1:10:33.7	10	15
JN-4	31	山口 清司	丸山 晃助	エナベタルADVAN久興GR86	ZN8	RJ	6:44.4	6:42.4	5:05.6	6:41.7	6:44.8	5:04.8		37:03.7	4:22.8	7:18.7	5:08.4	4:24.5	7:18.7	5:07.6		33:40.7	1:10:44.4	1	16
JN-4	33	渡部 弘樹	横山 慎太郎	WinmaX クスコ DL ウルト 86	ZN6	RJ	6:49.2	6:39.6	5:13.5	6:45.2	6:38.8	5:14.6		37:20.9	4:28.3	7:14.5	5:10.0	4:28.4	7:13.0	5:06.0		33:40.2	1:11:01.1	2	17
JN-3 (MCC)	24	岩堀 巧	相原 貴浩	一六RACING GRヤリス	GXPA16	RJ	6:57.5	6:48.0	5:10.6	6:50.1	6:46.7	5:07.2		37:40.1	4:24.8	7:13.9	5:04.4	4:20.0	7:11.3	5:06.9		33:21.3	1:11:01.4	11	18
JN-4	30	曾根 崇仁	小川 由起	P.MU☆DL☆INGING GR86	ZN8	RJ	6:58.2	6:42.8	5:10.6	6:46.2	6:44.9	5:13.8		37:36.5	4:28.4	7:16.5	5:12.7	4:25.2	7:06.6	5:09.1		33:38.5	1:11:15.0	3	19
JN-4	29	上原 淳	漆戸 あゆみ	埼玉スバル・ダンロップ・シャフトBRZ	ZD8	RJ	6:45.8	6:50.4	5:14.1	6:44.5	6:59.7	5:14.1		37:48.6	4:24.5	7:12.5	5:09.8	4:25.6	7:09.5	5:08.4		33:30.3	1:11:18.9	4	20

SS1 あたがす 1 9.53km走行タイム **6:46.5** ステージ順位：クラス **7位** / 総合 **20位** 合計タイム順位：クラス **7位** / 総合 **20位**

ハイランドへの参戦は今年で4回目となるが、今回は大会期間を通して秋晴れに恵まれ、初めてフルドライ路面でのラリーとなった。今大会からYOKOHAMAの新作タイヤ「A058」を投入。加減速・旋回性能ともに向上を実感した。路面に積もった落ち葉を警戒しつつ、タイヤの性能を確かめながら走行。一方で、タイヤの特性とサスペンションセッティングが一部マッチせず、サービスAで改善案を試すことに。

**SS2 鳥屋 1 7.93km**走行タイム **6:44.9** ステージ順位：クラス **6位** / 総合 **22位** 合計タイム順位：クラス **6位** / 総合 **20位**

今大会で新たに設定されたステージ。緩いコーナーときついコーナーが組み合わされ、緩急の変化が激しい。ペースノートにはメリハリをつけやすい表現を多用したものの、一部で情報過多となり、ドライバーが処理しきれない場面も発生した。サスペンションセッティングはこのステージでも走りにくさが残り、道幅の狭い高速区間では走行ペースを落としてしまう。

**SS3 アルコピア - 無数河 1 6.04km**走行タイム **5:03.5** ステージ順位：クラス **6位** / 総合 **13位** 合計タイム順位：クラス **6位** / 総合 **19位**

多くの観客が集まるひだ舟山アルコピアスノーリゾートをスタートし、ハイランド名物のグラベル路面のギャラリーコーナーを駆け抜けて林道へと入る。昨年までとは意識を変え、グラベル区間ではパイロンを小さく回り、車両を早く直進状態に戻して加速させることで、より速い走りを追求。林道区間でもドライビングを見直し、アクセルオンのタイミングを修正するなど、タイム短縮を意識した走行を徹底。

**SERVICE A (30min)****SS4 あたがす 2 9.53km**走行タイム **6:31.7** ステージ順位：クラス **6位** / 総合 **8位** 合計タイム順位：クラス **6位** / 総合 **15位**

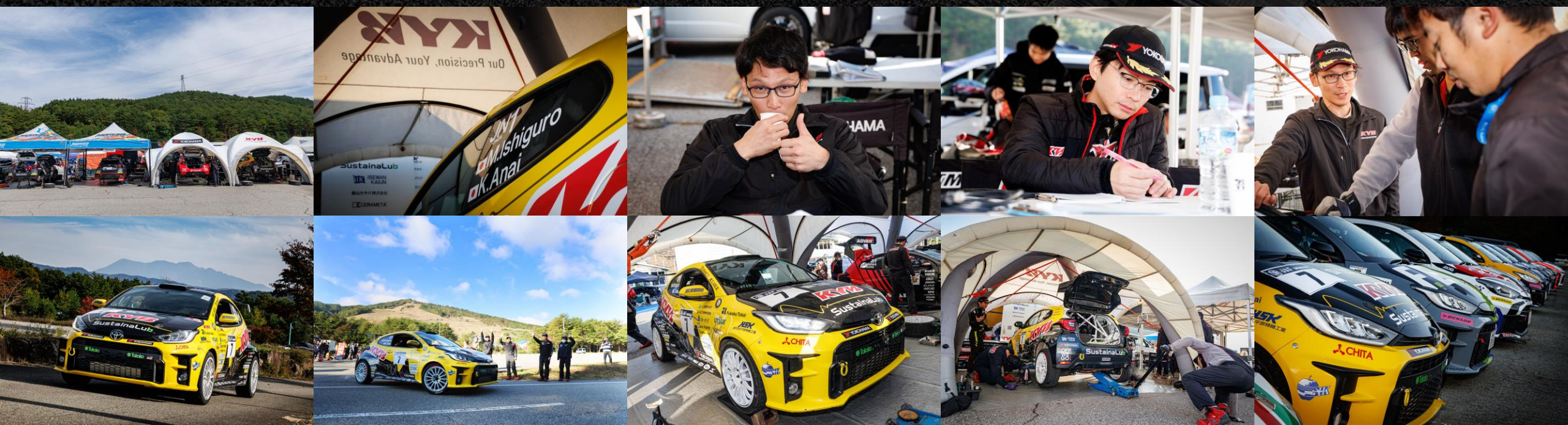
午前の走行で明らかとなった課題を改善するため、サービスAにてセッティングを変更。フロントタイヤも新品に交換し、自信を持って2ループ目に臨んだ。ステアリング、アクセル、ブレーキの操作を丁寧かつ滑らかに繋ぎ、タイヤの使い方を強く意識。SS1から14.8秒短縮し、同ステージの自己ベストタイムを更新、同等の性能を持つ車両がひしめくJN-3クラスの上位勢に迫る、総合8番手の好タイムを記録した。

**SS5 鳥屋 2 7.93km**走行タイム **6:37.0** ステージ順位：クラス **5位** / 総合 **14位** 合計タイム順位：クラス **5位** / 総合 **15位**

SS4で得た手応えを自信につなげ、午前の走行からさらにドライビングを改善し、冷静かつ積極的に攻めることを意識して臨んだ。サービスでのセッティング変更はこのステージでも効果を発揮し、しっかりとアクセルを踏み込める車両挙動を実現。攻めどころと抑えどころを意識した操作を心がけ、中盤のノートの情報量が多くなるテクニカルセクションも的確に処理し、SS2から7.9秒のタイム短縮を果たした。

**SS6 アルコピア - 無数河 2 6.04km**走行タイム **5:01.4** ステージ順位：クラス **5位** / 総合 **9位** 合計タイム順位：クラス **5位** / 総合 **12位**

林道区間ではタイヤのグリップ力を活かし、アクセルオンの時間を長く取ることを意識して走行。SS3から2.1秒のタイム短縮を果たした。僅差の順位争いの中、総合順位を3つ上げることに成功。1日を通してアクシデントや危ういドライビングはなく、安定した走りが着実に身についている。JN-1クラスでは2台がデリタイヤを喫してしまったこともあり、クラス5位でLEG1を終えた。

**SERVICE B (45min)**

SS7 駄吉上り 1 5.38km走行タイム **4:15.4** ステージ順位：クラス **7位** / 総合 **11位** 合計タイム順位：クラス **5位** / 総合 **11位**

LEG2も朝から快晴が続く。コースの一部には湧き水と泥によって約100mにわたり滑りやすい区間があるものの、全体的にはドライ路面で走りやすい。前日のサービスBでは、旋回性のさらなる向上を狙ってリアスタビライザーを交換。その結果、車両挙動は狙った特性に近づいた。路面が安定していたこともあり攻めの意識で走行。JN-3クラス最速タイムには4.0秒届かなかったものの、幸先良いペースで2日目をスタートした。

**SS8 青屋下り 1 8.86km**走行タイム **7:11.8** ステージ順位：クラス **7位** / 総合 **15位** 合計タイム順位：クラス **5位** / 総合 **11位**

本ラリー最難関のステージ。泥や落ち葉によって滑りやすいコーナーが点在し、下り勾配もきつく路面の見極めが重要となる。滑りやすい区間ではペースを抑え、リスクを避けた走行を意識、終盤の下り坂ではブレーキング時にリアタイヤがロックする傾向が強く、車両の挙動を乱さないようにブレーキ踏力を調整。総合順位こそ維持したものの、必要以上にペースを落としてしまい課題の残るステージとなった。

**SS9 無数河 - アルコピア 1 6.05km**走行タイム **5:02.5** ステージ順位：クラス **7位** / 総合 **18位** 合計タイム順位：クラス **5位** / 総合 **12位**

SS3/6の逆走となるステージ。LEG1のインカット走行によって泥や砂利が掻き出されていたものの、晴天の影響で泥が少なく、比較的走りやすいコンディションとなった。速度が乗る区間が下り基調となるためブレーキングが重要となるが、SS8に引き続きリアタイヤがロックしやすい傾向が強く、十分にブレーキを踏み込めずタイムをロス。僅差で競っていた後続車に逆転され、総合順位を一つ落とす結果となった。

**SS10 駄吉上り 2 5.38km**走行タイム **4:15.4** ステージ順位：クラス **7位** / 総合 **11位** 合計タイム順位：クラス **5位** / 総合 **11位**

サービスDでは、下りのブレーキング時のリアタイヤ接地性向上のため、車高と減衰力を変更。背反としてアンダーステア傾向がやや強まったものの、SS7以上に攻めの走行を意識。しかしステージ中盤で車両前方から異音が発生、走行を続けるにつれて音が大きくなったため、終盤はややペースダウンして走行。トラブルの影響を受けながらもSS7と同タイムを記録し、好タイムを逃した悔しさが残る結果に。

**SS11 青屋下り 2 8.86km**走行タイム **7:16.7** ステージ順位：クラス **7位** / 総合 **20位** 合計タイム順位：クラス **5位** / 総合 **13位**

慎重にスタートし、車両の様子を探りながら走行。当初は直線で症状が発生しなかったため、コーナーは抑えて直線は加速。しかし変速のたびに異音と振動が増大したため、シフトチェンジや急激な加減速を極力避ける走法に切り替えた。しかしステージ後半でさらに症状は悪化し、ペースをさらに抑えることに。SS8からのタイムロスは4.9秒に留まったものの、以降の走行は車両を守ることを最優先とした。

**SS12 無数河 - アルコピア 2 6.05km**走行タイム **5:46.3** ステージ順位：クラス **7位** / 総合 **56位** 合計タイム順位：クラス **5位** / 総合 **14位**

駆動系の激しい振動と異音は速度を落とせばかなり抑えられることを確認し、SS12ではタイムの追求は断念し、車両をフィニッシュまで運ぶことを最優先とした。途中では変速ができなくなるなど新たな不具合も発生したが、何とかフィニッシュラインを通過。車両は厳しい状態にあったが、最終のサービスEも通過し、競技を完走することに成功。競技後半で総合順位を落とすも、クラス5位/総合14位でラリーを終えた。

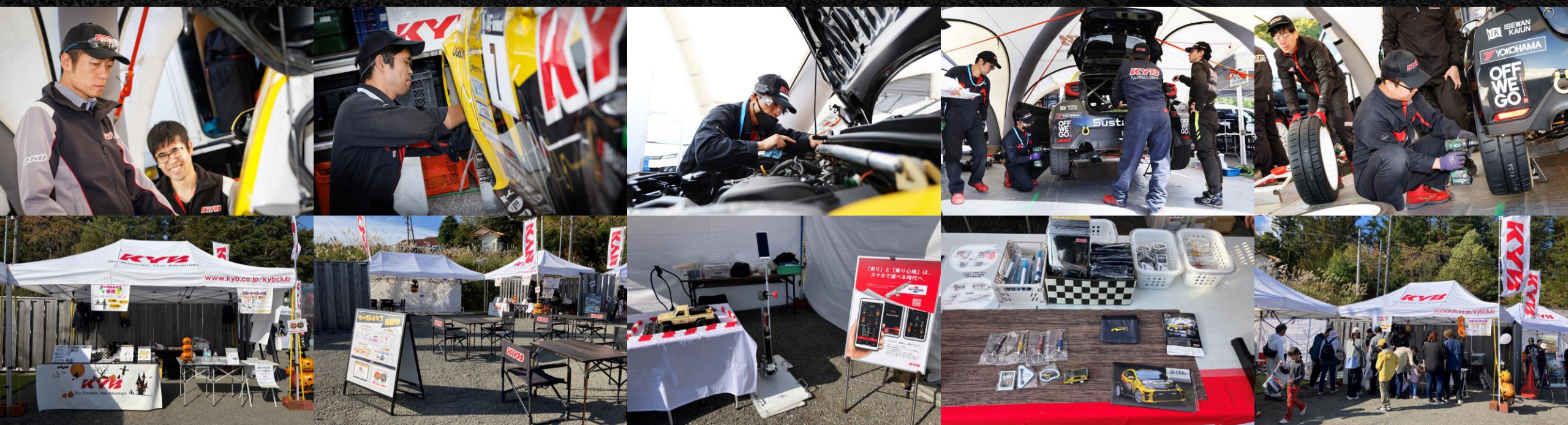


PHOTO GALLERY



DRIVER 石黒 一暢 - Ishiguro Motonobu -



カヤバがメインスポンサーを務める岐阜でのラリーであり、サービスや沿道で多くのファンの皆さまから温かいご声援をいただきました。社員チームとしてのラリー参戦も3年目を迎え、参戦初期と比べると、沿道でカヤバの応援グッズを手にされる方が増え、カヤバの認知度向上を実感しています。今大会では新作タイヤをご提供いただき、これまで以上に気合いを入れて本戦に臨みました。久々のドライのターマックラリーとなり、序盤は様子を見ながらの走行となりましたが、多くのステージで上位陣に迫るタイムを記録できたことは大きな自信となりました。終盤はトラブルが発生し、結果は満足のいくものにはなりませんでした。まだまだ伸びしろがあることも実感できたため、さらなるパフォーマンス向上に努めてまいります。

次戦は最終戦となるモントレイです。私自身にとって、カヤバラリーチームのドライバーとして出走する最後のラリーとなります。これまで支えてくださった皆さまへの感謝を胸に、最後まで全力で走り切りたいと思います。引き続き応援のほど、よろしくお願いいたします。

Co-DRIVER 穴井 謙志郎 - Anai Kenshiro -



ハイランドマスターズは、岐阜に拠点を置くカヤバが2023年よりメインスポンサーを務める大会であり、特別な思いで臨みました。ここ数年は雨の印象が強い大会でしたが、久しぶりの晴天のハイランドを気持ちよく走ることができました。セッティングを変更してからは好調な走りができ、特にSS4では「安全に、安定して、速く」という我々の目指す走行を実現できたと感じられるステージとなりました。最後のSS12では、アルコピアで待つ観客の皆さまの前に勢いよく姿を見せたかったのですが、車両トラブルによりスローダウンせざるを得なかったことが悔やまれます。それでも無事に完走でき、車を守る判断を下せて良かったです。

ラリー期間中は多くの温かいお言葉や応援をいただき、非常に励みになりました。この場を借りて御礼申し上げます。来年のハイランドマスターズにもぜひお越しいただき、第2期カヤバラリーチームを応援いただけますと幸いです。次戦はいよいよ、群馬県で開催される今シーズン最終戦の「モントレイ」です。3年間の活動の集大成として、悔いのないラリーで締め括りたいと思います。

MECHANIC 湯浅 慎一郎 - Yuasa Shinichiro -



この度、社内公募を通じてカヤバラリーチームに参加しました。昔からモータースポーツに興味があり、F1やWRCを観戦してきました。一時期は関心が薄れていましたが、カヤバラリーチームの全日本ラリー参戦をきっかけに、再びモータースポーツを身近に感じるようになりました。2024年、2025年にはカヤバ労働組合主催のモントレイ観戦ツアーに参加し、現地でラリーの迫力を体感したことで、自分も競技に関わりたという思いが強くなりました。そして今回、社内公募に挑戦し、念願だったラリーチームの一員として新たなスタートを切ることができ、大変嬉しく思っています。観戦する側から参戦する側へと立場が変わり、身の引き締まる思いですが、一日でも早くチームの戦力になれるよう、知識と技術の習得に励んでいきます。

カヤバがメインスポンサーを務めるハイランドマスターズで初参戦を迎え、これまでにない緊張感の中での作業となり、多くの反省点や課題が見つかりました。最終戦のモントレイは、私の出身地である関東地区での開催となります。今回の経験を活かし、より正確で安全な作業ができるよう取り組んでいきたいと思っています。

NEXT RALLY

11/20～22 群馬県安中市
MONTRE 2026

Special Thanks

IK 伊勢湾海運株式会社

CHITA

Takako

Fukoku Tokai

山二産業株式会社

Taiyo 大洋商事

カーメック

株式会社サイキ

OGISON

株式会社 甲山製作所

HJK 株式会社平原精機工業

TOSHIDA KOGYO CO., LTD.

UTSUE UTSUE SEIKI CO., LTD.

NSSI NAKAGAWA SPECIAL STEEL INC.

三正工業株式会社



株式会社 東海技研

金山カヤバ株式会社

Covalent

IKO 日本トムソン

株式会社 興亜組

林愉快 研究所

AIDO METAL

自由工業

宝駒鋳金工業株式会社

NUTAHARA RALLY SCHOOL

YOKOHAMA

KTMS

HKS

BRIDE

LAILE

CERAMETA

MOTOR SPORTS OIL FORTEC

PIAA

AQTEC INTERNATIONAL

BELL HELMETS

TONE

Mizuno

SPK

TCZ ADVANCE

PROSPEC

カヤバラリーチームの活動は
各種SNSにて発信しています。



@KAYABA_KYB



@kybcorporation



@kyb_official

KYB
Our Precision, Your Advantage

カヤバ株式会社